

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立富士森高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、主幹教諭（教務主任）、経営企画室長 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任）、
主幹教諭（生活指導主任）、主幹教諭（進路指導主任） 計6名
- (4) 協議委員の構成
近隣小学校長、近隣中学校長、近隣自治会長、民生・児童生委員、
本校同窓会会長、本校PTA会長 計6名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和2年6月 書面開催

出席者 協議委員5名（書面によりご意見を頂いた協議委員数）

内容 委員委嘱、委員紹介、協議会趣旨説明、学校経営計画
本年度の学校運営状況及び各分掌からの説明等

第2回 令和2年11月 書面開催

出席者 協議委員6名（書面によりご意見を頂いた協議委員数）

内容 本年度の学校運営状況

第3回 令和3年2月 書面開催

出席者 協議委員6名（書面によりご意見を頂いた協議委員数）

内容 学校評価アンケート集計結果、本年度の学校運営状況

- (2) 評価委員会の状況

第1回 令和2年11月 書面開催

出席者 協議委員6名（書面によりご意見を頂いた協議委員数）

内容 令和2年度学校評価の概要（外部への学校評価は未実施となる）

第2回 令和3年2月 書面開催

出席者 協議委員6名（書面によりご意見を頂いた協議委員数）

内容 学校評価アンケート集計結果の分析及び考察

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点

- ・本校の教育活動についての生徒・保護者の理解度
- ・生徒・保護者の要望に応える教育活動が行われているか
- ・地域住民から見た本校の状況（本年度は未実施）

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

12月	保護者	496名(約52%)
12月	教職員	34名
12月	生徒	944名
12月	地域住民	(本年度は未実施)

(3) 主な評価項目

学校運営、学習活動、生活指導、進路指導、その他(特別活動、施設・設備)、
学校からの情報発信、本校への要望等の評価項目を、学校の実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要

【生徒による学校評価】

- ・生徒による学校評価の結果は、4と3の割合が前年度の割合(%)と比較して5ポイント以上上昇したものの3項目、低下したものの0項目となり、全体的に評価が上昇傾向であった。
- ・本年度は臨時休業、学校行事の中止・延期など、例年とは異なる学校生活が続いたにもかかわらず、昨年度に引き続き、全体としては学校への評価は高くなっている。

【保護者による学校評価】

- ・保護者による学校評価の結果は、4と3の割合が前年度の割合(%)と比較して5ポイント以上上昇したものの、低下したものはともに0項目であったが、昨年度および一昨年度に比べ評価が、上っている項目が多い。
- ・評価が下がった項目は、1の「本校の生活は楽しく感じられているか」や4の「本校には他校にない特色があると思いますか」など、臨時休業などが続いた本年度の学校生活では、判断に困ると思われる内容があったためと思われる。

【教員による学校評価】

- ・教員による学校評価の結果は、4と3の割合が前年度の割合(%)と比較して5ポイント以上上昇したものは13項目、低下したものは1項目であった。
- ・これまでにはない社会状況下による教育活動を行った1年間であったが、1の「生徒は総合的に見て学校に満足していると思いますか」の項目については約10%高くなっている。

【地域住民による学校評価】

- ・本年は実施することができなかったが、例年は、4の「登下校時での通学マナー」の項目についての評価が低い。これは、自転車の乗り方や通学マナー、身だしなみや礼儀などに対しての生徒指導に対して、地域住民の方が関心を頂いていることが分かる。

(5) 評価結果の分析・考察(学校及び校長への意見・提言内容)

- ・生徒、保護者とも、全般的には学校に肯定的な評価となっているが、「学習指導」・「進路指導」・「学校行事」等について、今後とも力を入れてほしいと感じていることが推察される。
- ・地域住民の方は、自転車の乗り方や通学マナー、身だしなみや礼儀などの生活指導に関心を頂いていることが推察される。通学マナーや身だしなみなどの生徒指導について、今後とも改善を続けていくことが求められているといえる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価への反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・本年度は書面による開催のため、協議会からの意見を学校の教育活動に反映させることは難しかった。しかし、例年どおり、進学実績の向上という最大の目標に対しては、保護者への進路説明会など

による教職員と保護者の連携が、生活指導については、自転車などの通学マナーの改善に向けて努力を継続する必要がある。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・部活動、学校行事等と学習・進路活動の両立の推進という重点目標を実現するため、昨年度、部活動運営指針を見直し、特に3学年については進路活動を優先させる指導を徹底した。これに対し、部活動が従来どおり実施できない等の理由での生徒・保護者からの自由意見が複数寄せられた。学校の方針が生徒・保護者に正しく伝わるよう、今後も継続して様々な形で情報を発信していく。
- ・本年度は、従来どおりの学校行事、部活動の実施が難しい中であつたが、評価が下降した項目については十分な分析を行い、改善に向けた具体策を実行する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

（1）学校運営

- ・学校の特色や教育方針は中学生や地域の方々に理解されるように広報を充実させ、生徒募集での入試倍率の向上につなげる必要がある。今後も、さまざまな形で情報を発信し、地域との連携を基盤とした募集・広報活動を一層推進する。
- ・受験の指導だけでなく、部活動や学校行事等との両立を実現させるための具体的な指導、環境整備について、今後も全教職員の連携の下、推進していく。

（2）学習指導

- ・授業に関する項目は昨年度と比べて上昇している項目が多いが、これまでのアクティブラーニング推進校としての実践を活かし、さらに授業を工夫し満足度を高めていく努力が必要である。
- ・受験指導に対する生徒の要望も年々高くなり、学力向上を目指してくために、学習室などの学習場所やサポートティーチャー、学習サークル「学びの森」などの取組は、この層の希望を受けとめ充実させていくことが、一層必要である。

（3）特別活動

- ・本年度は、十分な地域連携を行うことが難しかったが、社会情勢が落ち着いた際には、例年同様、地域とふれあい活動、地域への訪問活動やイチョウ祭りなどへの部活動の参加を継続していきたい。

（4）生活指導

- ・生活指導は、今の程度の指導が適切であるととらえている保護者が増えてきているが、遅刻防止指導や自転車の乗り方、マナーについて、及び生活規律を遵守する指導を一層徹底させる必要がある。
- ・校内、校外での様々な活動を通じて、学校の代表としての自覚を持った行動を促すことにより、生徒の社会性の育成を図っていく。

(5) 進路指導

- ・進路指導については、進路に関する三者面談の充実などの意見が複数あった。生徒と保護者の希望が必ずしも一致しない場合もあるため、保護者との連携を深める機会を一層充実させる必要がある。
- ・ここ数年、保護者が「本校で特に力をいれてほしいこと」の項目では、進路指導・受験指導に対する期待が大変大きいことが分かる。今後も、最後まで志望校を目指して学習させるなど進路指導を一層充実させていく。

(6) 健康・安全

- ・安全・安心な学校を推進することが必要であると同時に、台風等の悪天候や災害発生時の対応について自分で考え行動できるような指導を実施する。
- ・通学時の自転車事故が起きており、また、通学時に不審者と遭遇する事件も増えている。今後も、安全に対する意識を指導育成していく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合【昨年度参考】

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

8 その他

- ・本年度は、コロナ禍の社会状況のため、書面による協議会の開催とし、地域住民の方へのアンケートは実施することができなかった。